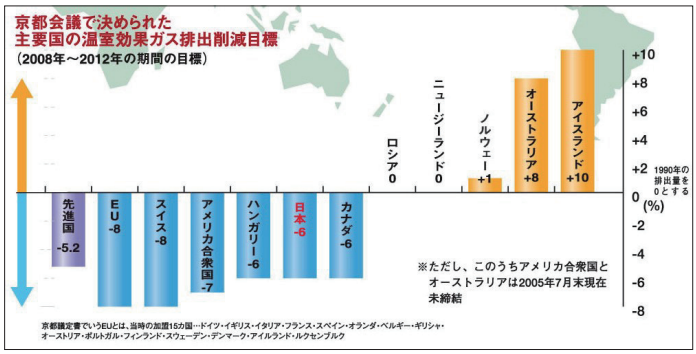
京都議定書・北海道洞爺湖サミット

地球温暖化の原因となる二酸化炭素など温室効果ガスの削減を義務づけた初の国際協定，京都議定書の約束期間が平成20年1月1日から始まりました。この議定書は，平成９年12月，京都で開催された「気候変動枠組条約第3回締約国会議（地球温暖化防止京都会議　COP3）」で，先進国から排出される温室効果ガスの具体的な削減数値目標や，その達成方法などを定めたものです。（図−3）

図−3 温室効果ガス削減目標



議定書では，日本が負う排出量削減の義務は「6%」となっていますが，2006年度の温室効果ガス排出量速報値は，基準年（1990年）に比べ6.4%増加している状況にあります。

このような中，日本は平成19年5月に政府構想「美しい星50」[2]を発表し，翌6月のドイツでの主要国首脳会議（ハイリゲンダム・サミット）で高い評価を受けました。

今年は，北海道洞爺湖サミットが開催され日本は議長国を務めることになっていることから，高い技術力と資金力で世界の先導役になることが求められています。

鹿児島県における地球温暖化の影響

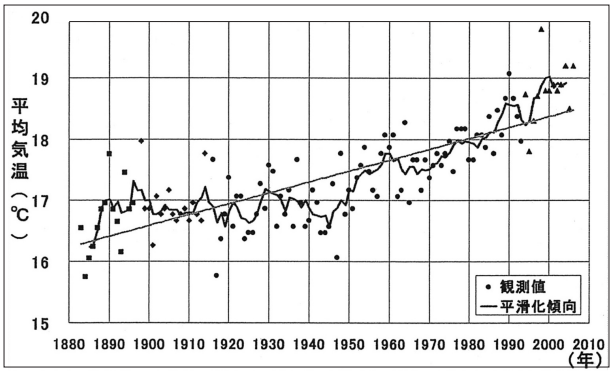
鹿児島では，過去50年間で，鹿児島市で約1.8度，阿久根で約0.7度，名瀬では約0.6度上昇しています。また，平成19年の平均気温は，県内全7観測所で平年を上回り，うち4地点では観測史上2番目の高温となりました。（表−3，図−4）

表−3　平成19年平均気温

地　点	気　温	平年比
鹿児島	19.3℃	1.0℃高※
阿久根	18.1℃	1.2℃高※
枕崎	18.7℃	0.9℃高※
屋久島	20.3℃	1.1℃高※
種子島	20.2℃	0.6℃高
名瀬	22.0℃	0.5℃高
沖永良部	22.7℃	0.4℃高

※観測史上1998年に次ぐ2番目の高温には，を付加した。

図−4　鹿児島市の平均気温の変化



2　平成19年5月，安倍前総理が地球温暖化問題について，提案した次の三つからなる戦略。第1は，「世界全体の排出量を現状に比して2050年までに半減する」という長期目標及びその実現に向けての「革新的技術」とそれを中核とする「低炭素社会づくり」という長期ビジョンの提唱。第2は，2013年以降の温暖化対策の国際的な枠組みの構築に向けた3原則の提唱。第3は，我が国として，京都議定書の目標達成を確実にするため，国民運動を展開するという取組です。